3．地場産農産物の加工・販売 ①

棚田米の加工品を中心に青空市等で販売

事例	上仰木・辻ヶ下第３集落協定推進会	大津市

面積(ha)			協定参加者(人)					協定開始	人・農地プラン策定状況等
	田	畑		農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等		
44.4	44.4	－	155	154	0	1	0	平成13年度	－

加算措置概要	超急傾斜農地保全管理加算	棚田地域	棚田ボランティア／指定棚田

活用した地域資源	棚田、仰木ふれあい青空市、棚田米を使った酒

地区状況・経緯

比叡山の麓にある本地区は、仰木太鼓の継承など農村文化の伝承と創造に取り組んでいる地域である。ほ場整備をしていない耕作しにくい棚田は、高齢化の進行等で農業の継続が難しく、集落の水路等も老朽化し、その補修に苦慮していた。今後について、集落で話し合いが行われた結果、平成13年から本制度に取り組むこととなり、隣接し農地が入り混じっている上仰木と辻ヶ下の集落が一体となり４つの協定に分けて農地を保全してきた。

上仰木・辻ヶ下第３集落協定推進会では、農地の位置・条件等から12の地区に分けてそれぞれで保全活動を行い、活動の方向性等については全体で話し合う体制で進めている。

協定参加者は徐々に減少しているが、耕作できなくなった農地は本会メンバーで草刈り等をして保全管理を行い、可能な限り作付けしている。

また、地元の小学校の学習田として提供し、5年生を中心に田植えから収穫を中心とした農業体験を継続して受け入れている。

12地区中の八王寺地区では、棚田ボランティアの受け入れや棚田オーナー制度の運用も実施しており、近年は他の地区にも同様の活動が広がり始めている。

取組内容

■**加工品販売**：「仰木ふれあい青空市」が毎週日曜日に開催され、推進会としては、もち米の加工品（草餅、納豆餅、黒豆餅、おはぎ、赤飯など）を中心に販売している。餅の加工は許可を受けた女性のグループを中心に対応している。その他、米の直売、冬には吊るし柿など季節に応じた加工品を推進会の有志が販売する。

協定内の「仰木自然文化庭園構想 八王寺組」では、棚田米を使った酒造り「八王寺 はっちょじ」に取り組み、販売している。こうした活動で、上仰木農業組合の後継者育成田とオーナー田の「日本晴」を使用することで後継者を育成し、売り上げの一部は棚田保全活動に役立てられる。

■**意識向上**：取組の意識を高めることを目的に、毎年、先進地域の視察・研修を行っている。

取組成果

■**地産地消**：棚田でできた米を加工し販売することで、安全・安心な地産地消が実現できている。

■**棚田の保全**：交付金を活用しなければ更に荒廃した田が増加していたと思われる。推進会で協力して保全の取組を継続したため、学習田としても活用できている。

課題・展望

■**展望**：新たに施行された棚田地域振興法の指定棚田地域に旧仰木村が指定された。これに対応していくため協議会を設置した。加工品の販売においてもどのような活動を展開していくかを話し合っており、新法の制度を効果的に活用していきたい。

加工を担っている女性グループへの負担を考慮し、活発な活動が展開できるよう考えていきたい。

切り餅づくりと吊るし柿

青空市での販売

学習田として体験の受け入れ

3．地場産農産物の加工・販売 ②

共同工場で生産コストを下げ朝宮茶の高品質化を実現

事例	奥山集落協定	甲賀市

面積(ha)			協定参加者(人)					協定開始	人・農地プラン策定状況等
	田	畑		農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等		
18.6	－	18.6	21	21	0	0	0	平成17年度	○

加算措置概要	－	棚田地域	－

活用した地域資源	朝宮茶

地区状況・経緯

日本五大銘茶の一つである朝宮茶の主生産地。寒暖の激しい気候と傾斜を活かし、地域ぐるみで安定生産を図っている。

1世代前まではすべて専業のお茶農家であったが、近年のお茶の市場価格の下落により専業農家では厳しくなってきており、更に生産者の高齢化もあって生産体制を維持することが難しくなっている。

更なる高品質茶の生産を目指すために共同製茶工場を活用しようという目的で、本制度に取り組み始めた。

令和2年に入ってコロナ禍により消費量が激減、インバウンドのお土産も輸出も減少し、無駄な在庫を持たないために今後の収穫・加工も減少する見込みである。コロナ禍による生産者の急減が懸念される。

取組内容

■**共同加工：**個々の農家が共同加工施設に持ち込み、生茶を合葉して品質の均一化を図り、更にロットを確保して高値で取引できるよう取り組んでいる。高品質の茶製造を通じた「近江朝宮茶ブランド」を定着させ、売上の向上により経営の安定化を図り、担い手の育成を行ってきた。

取組成果

■**コスト削減・省力化：**共同製茶工場を活用することでコスト減、時間の短縮、労働力の省力化を図ることができた。

■**高品質化：**荒茶共同販売会に向け集落が一体となって、女性陣も交えた共同作業で茶葉を丁寧に摘み取ったものが１等１席の評価をもらっており、皆の励みになった。

■**茶畑の維持：**交付金を活用できたので、茶畑をこれまで守ることができた。

課題・展望

■**課題：**

高齢化により農家の減少は避けられないが、生産できる農家がどうやって経営していくかが大きな課題。傾斜地であるのでよいお茶ができるが、農地の集約化・機械化も難しいことから生産コストを下げにくい。中山間地特有の少量高品質のお茶をつくるという考えもあるが、生産コストが高いことが課題である。

農地を守るには、販路の確保と新たなお茶農家の育成が最大の課題である。

共同製茶工場

集落での荒茶共同販売会に向けた共同茶摘み

手もみ茶体験会

3．地場産農産物の加工・販売 ③

気候条件を活かし獣害に強いリンドウ栽培にチャレンジ

事例	黄和田町集落協定	東近江市

面積(ha)			協定参加者(人)					協定開始	人・農地プラン策定状況等
	田	畑		農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等		
3.6	3.6	－	19	18	1	0	0	平成12年度	－

加算措置概要	－	棚田地域	－

活用した地域資源	保全された管理農地、リンドウ

地区状況・経緯

愛知川の上流に位置する本地区では、約20年前に町内の農地所有者が中心となり「黄和田振興管理組合」を設立した。耕作者の高齢化や獣害の増加で耕作されなくなった3haの農地を共同で、定期的に耕耘や畦道の草刈りなどの管理を行っていた。作付けしない農地であっても維持管理は集落の景観上必要であり、本制度を活用することとなった。

年間を通してサルやシカ、イノシシなどの野性獣が出没し農作物への被害が大きく、強度の高い杭と天井まで覆う侵入防止柵を整備し、自給野菜の栽培をしている。

集落にはＩターンの家族が数年前から住んでおり、更にその知人も移住して、自治会の役なども担っていただいている。地域に溶け込んでおり、二拠点居住の方も2世帯いる。

取組内容

■**リンドウ栽培：**平成29年度に県の農産普及課から、保全された管理農地の活用策として、気候条件が適しシカなど野性獣の食害が少ない「リンドウ栽培」を提案された。定植して5年程度は植え替えの必要がなく同じ株で毎年収穫することができ、他の花卉品目に比べ少ない労力で生産できることがメリットであることから栽培することとなった。

■**リンドウ出荷：**8～10月の３か月が収穫時期である。2年目には直売所に出荷できるようになった。

施肥量や施肥時期などを見直し、品種も増やして、3年目には多彩な色の組み合わせや他で栽培された菊と併せた仏花として直売所に出荷している（近くの道の駅では売れないので街中の直売所に持ち込んでいる）。現時点で、3aで800本栽培している。

マルチ栽培の間の草取りや出荷準備は主に女性が担っている。

取組成果

■**農地の活用：**保全管理農地でのリンドウ栽培で農地を活用することができた。

課題・展望

■**課題：**

リンドウ栽培は水・施肥が頻繁に必要で、直売所でも完売はしないため、利益を確保するためには規模拡大が必要。マルチ栽培の間の草取りが重労働である。

生産量を確保すれば市場に出せるようになるが、出荷用の花束づくりなどの体制を整えるためには、人手が必要である。

近隣の集落ではリンドウ栽培に興味を示す方がいるが、地域の中で栽培に取り組む人を確保することが課題である。

フラワーネットと支柱の設置作業

収穫前のほ場（7月）

出荷用に花束にされたカラフルなリンドウ